

AA日本ニューズレター

No.218

■AAのみなさまへのご挨拶

* - + - *

A類常任理事 菅沼 直樹

このたび、縁あってAA日本のA類常任理事を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

ご存じない方も多いと思いますので、今回は自己紹介をさせていただきます。私は愛知県の刈谷病院という精神科病院で精神科医をしております。いろいろな病気の患者さんを毎日診ているのですが、いまではアルコールを中心とした依存症の患者さんが半分くらいになってしまいました。

- + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

本格的にアルコール治療に携わるようになったのは、1995年に現在の病院に赴任してからです。以来、30年近くということになりますので、ずいぶん長い間、アルコール患者さんたちとお付き合いをしてきたことになります。

長くやっていると、「アルコール専門医」などと言われることもあったりするのですが、私は当初からアルコールや依存症に特別な興味を持っていたわけではありません。むしろ、多くの医療者と同様に、アルコール依存症の患者さんには苦手意識を持っていました。

それなのにどうして、こんなに長くお付き合いすることになったのか。後付けの理由かもしれませんが、日本で初めてアルコール治療を始めた一人であるなだいなださん(本名・堀内秀、作家であり、精神科医でした)のエッセイや小説を高校・大学時代にたくさん読んだことが影響しているのかもしれませんが、当時は精神科医になる予定もなく、ましてアルコール患者さんを専門に診ることになるとは夢にも思いませんでしたが、彼の自由で柔軟な考え方が好きで、文庫本など安く手に入る本はほとんど読んでいました(貧乏学生だったので、価格は重要でした)。アルコール依存症は医者が治せる病気ではない、ということは、彼の本から知っておりました。治せない病気を診なくてはならない医者も頭をかかえますが、そんな医者に診てもらった患者さんもかわいそうなものです。とはいえ、先輩(なださんのこと)というのはありがたいもので、そうした患者さんやご家族たちとお付き合いの仕方があること、医者は治せなくとも、自助グループという回復の道があること、治療から回復へのお手伝いが多少ともできるかもしれないことなど、知らず知らずのうちに教えてもらっていたように思います。

現在、私が務めている病院では刈谷アディクションセンターという部署を作っていて、そこではアルコール・薬物・ギャンブル依存症の病院内外の窓口役をしています。ご存じのように、依存症の治療は、一人の医者、ひとつの医療機関でどうにかなる、というようにはなかなか行きません。患者さんご自身やご家族の他に、さまざまな医療機関、福祉機関、行政機関などと協力して支援を行っています。その中の大きな力のひとつが自助グループになります。

AAの皆様には日頃から病院にお越しいただき、アルコール依存症の患者さんたちにメッセージを伝えていただいています。このメッセージというものには、なにか特別な意味をもっているようにずっと思っていました。いのちの根元を動かすような力を秘めているように感じるのです。外来のミーティ

ングで、あるいは入院のプログラムの中で、メッセージを伝えていただき、その姿を見せていただくことで、私たちではできない形で、患者さんや家族を動かし、勇気づけ、慰める姿を何度も見てきました。ミーティングやプログラムの後の「待っていますよ」の一言と笑顔によって、患者さんや家族のかけがえのない一歩を後押ししてもらえることがあるのです。

病院では、患者さんだけでなく職員に対してもAAの紹介をしていただく機会を設けていただいております。理解をひろげてもらっています。医療者にとっても、体験談は気づきの機会になります。先日も医療者向けの研修会を開催してAAの方の体験談を聞く機会を持ったのですが、その訥々とした語り口から伝わるそれまでの人生のつらさ、切なさ、やりきれなさ、不安、後悔、自責から喜び、希望、勇気、信頼へと繋がる物語に、参加者は一心に引き込まれ、涙ぐむ人もいました。体験談を聞いて、私たちはこの仕事に対して、小さな誇りと幸せと勇気をもたらすことになりました。

今回A類常任理事という役を務めさせていただくことになったことは大変光栄ですが、一方でかなりの気後れを感じざるを得ません。私自身、AAのオープンミーティングにたまに参加させていただくことはありましたが、AAについてはずっと外部者で、その運営や仕組みなどについてはよく知らないまま来てしまっています。今回、AAというコミュニティに加わることになり、私は新しく生まれた赤ん坊のようなものなのだろうな、と感じています。

医療者というある意味異質な外部者が加わることがもたらすメリットもあるのでしょう。不慣れで場違いな言動、勘違いも多いかと思いますが、ひとつずつみなさまに教えていただきながら、私の言葉を発して行けたらと思っています。私たち医療者がAAの一員として活動することで、患者さんが感じる孤独感や不安感を軽減し、回復への道のりを共に歩む助けができるかもしれません。

AAの皆様とお会いしてお話を聞くたびに感じるのは、その真摯さ、誠実さ、優しさ、そして情熱です。この病の難しいところは、酒がその人の智慧と自信を奪い、不安・恐怖を植え付けることです。AAの活動は、そうした患者さんたちに、あなたは救われるのだ、回復は可能なのだ、祝福されているのだと、呼びかけ続けてくれています。

なだいなださんの言葉に次のようなものがあります。

「断酒とは、酒から自由になるための患者の挑戦である」

自由を目指して幾度でも挑戦していこうとする人たちを、みなさまとともに応援していきたいと思っています。

■AA 日本 50 周年記念集会開催に向けて

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + -

AA 日本 50 周年記念集会実行委員会 事務局長 多々良

AA 日本 50 周年記念集会の実行委員会は 2021 年 4 月 25 日(日)にスタートしました。もうピークを越した感じはありましたが、まだコロナ禍が 5 類に移行する 2 年前です。1 回目の実行委員会から時節柄、実行委員会開催にオンラインも取り入れるかどうかの決を採りました。時期が時期で実行委員会開催にオンラインを取り入れることに反対のメンバーはいませんでした。(保留はいましたが) このころはさすがに 4 年も経てばコロナなんかすっかり無くなっていて、伸び伸びと記念集会が開催できるだろうという根拠の無い自信と、コロナのせいで急遽開催がオンラインに変わった WSM (ワールドサービスマーケティング) のように完全オンラインでの開催になってしまうのだろうか、45 周年のように会場開催で進めたら急遽開催中止になってしまうかという不安の雰囲気が同居している時期でした。私個人はこの頃からコロナ禍はコロナ騒動であって、純粹にコロナのみによる死亡者が急増するパンデミックで無いという感じ方だったので絶対大きな会場で開催したいという気持ちでした。他の実行委員メンバーの考え方は聞いていないですが、実行委員会を開く度に実行委員会の席は満席状態でした。私と同じで、みんなリアルな集まりに飢えているな、コロナごっこなんかそろそろいいやという気持ちだなと勝手に感じておりました。2021 年 9 月には実行委員会の席にて会場選定が始まりました。候補に挙がった会場は埼玉県大宮をはじめ、千葉県成田市、福島県郡山、東京都千代田区、東京都台東区、東京都中野区、東京都代々木、長野県軽井沢、北海道と多岐にわたりました。実行委員会メンバーからの案以外に公募も行いました。集まりは悪かったですが…(0 件) 大宮のソニックシティは私が提案とプレゼンをしました。大宮は AA 創生期の大宮ハウス発祥の地です。ミニーさんやバーブさんが居た場所です。私は 2018 年ごろまで毎週火曜日にはミーティングでバーブさんと顔を合わせていました。その頃私はバーブさんが AA の中で名前が広く知れ渡っている人とは知りませんでした。ただ、大宮ハウスの頃の話や、ミニーさんとの話を興味深く聞いていました。だからなんとはなしに大宮開催がいいなと思っておりました。

そして私は事前にソニックシティと簡単な打ち合わせを行って情報を収集していました。施設側の必要書類を揃えられればもうこの時期から役 4 年も先の 2025 年 3 月の予約が取れるとソニックシティと話がまとまりました。パンデミックのせいで大きな会場の運営が行き詰まっている時期に、少し先とは言え大きめのイベントというエサを目の前にブル下

げたようで少し後ろ髪を引かれる部分もありましたが、話はかなり有利に進められた感じがします。この条件を持って、実行委員会でプレゼン、採決を行い 2022 年 2 月には会場は大宮ソニックシティにて進めることが決定しました。会場選定を進める中で、2022 年 1 月 9 日(日)の実行委員会で私は事務局長に任命され、書類管理と担当未定の面倒くさい役割は全て一時的に引き受けるという大任を授かりました。いろいろな討議が進む中翌 3 月には開催方式はチケット制ではなく、初めての仲間が手ぶらで来られる献金制と決まりました。これを少し遡る頃からテーマ、ロゴの公募が始まりました。実行委員メンバーの提案するテーマロゴも公募から上がったものと同じに扱って選定しました。テーマもロゴも各々 30 種類以上集まり決を採るだけで実行委員会 1 回分の時間を十分に費やしました。小委員会(財務、広報、プログラム)もメンバーが固まり始め、実行委員会での活動はゆっくりながらも確実に進み始めていました。会場が決まる、ロゴが決まる、テーマが決まるこの頃からメンバーへの宣伝活動が活発化してきました。私もこの 50 周年の宣伝という大義名分がなかったら行かなかっただろう北海道、九州、和歌山、静岡に行きました。また、近場のラウンドアップ、OSMなどを回っては宣伝もしています。さらに広報委員会メンバーの活動が凄まじく、そのかいあって献金はあれよあれよという間に目標金額に近づき、献金額達成目標としていた開催半年前の 2024 年 10 月より半年も早い 2024 年 4 月に目標金額を達成していました。他の小委員会の活動も着実に進んでおり、50 コマを越えるミーティングの割り振り、大ホールでのイベント、受付、案内、設営などイベント本番の青写真がハッキリと見えそうな状態まで来ています。この原稿を書いているのは 2024 年 8 月 20 日です。本番開催までのこり 7 ヶ月、約半年です。本番開催までラストパートの時期です。当初から比べればかなり進んだとはいえ実行委員会メンバーは有り余る状態ではないし、あした本番を開催できるほど、細部までまとまったわけではありません。残り約半年を新しい実行委員会メンバーを集めつつ、細部を詰めて調整し、参加者全員が AA メンバーで有ったことが良かったと思えるような、初めて参加した人がたとえアル中でなくても AA のメンバーになりたくなるような、まして初参加アル中ならその日からメンバーになりたくなる、そんなイベントに出来たらと思っています。妄想は膨らむばかりです。ただ実際は本番に向けて必要な項目の抜けはないか、その抜けをひとつずつ確実に埋めてゆくのが残された作業だと感じています。まさに今日一日、本番開催に向けて、後から振り返っても満足できるような今日一日を積み重ね AA 日本 50 周年記念集会の本番を迎えたく思います。

■改訂版ビックブック出版に際して

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

B類常任理事 出版担当 丹生

皆様ご存じの通り、第26回評議会報告(議題3-2)に基づき、訳語検討委員会による検討と常任理事会審議を経てビックブックの日本語改訂を進めて来ました。直近のビックブック本文の日本語改訂は2000年、ハードカバー版の個人の物語編集は2002年に行われており、20年以上の時が経過しております。

年数の経過に伴い前回の改訂以降、メンバーの皆様から多くの訳語変更依頼がJSO出版局に寄せられてきました。変更依頼の数は80件以上にのぼりました。それらを訳語検討委員会において1件1件、時間をかけて丁寧に審議し、変更するもの、変更しないものに仕分けし、常任理事会審議を経て、第29回評議会にて改訂版ビックブックの最終承認が報告されました。その後、現行版ビックブックの在庫を見ながら、出版準備を進めてまいりました。8月のJSO郵送物に改訂版ビックブック出版予定を入れておりますが、2024年10月頃から「ポケット版」を皮切りに第4版のビックブックが出版できるはこびとなりました。多くの方々のご尽力により出版出来る事、感謝申し上げます。その後は2025年2月頃に第4版「ハードカバー版」の出版を予定しております。ハードカバー版の個人の物語は再編されたものになります。2020年8月のビックブック再編委員会で確認した事は以下になります。

BB「個人の物語」再編方針

■再編の目的

「その時点での典型的なAAメンバーの人たちの物語がより正確に、一人でも多くのアルコールクに届くようにすること」(BB抜粋)

■再編方針

同時代性と多様性をベースに、できるだけ多くのアルコールに問題ある人に共感と希望を与えるものとする。

【再編にあたっての4つのポイント】

| | |
|------|--|
| 同時代性 | その時点での典型的なメンバーの物語 |
| 多様性 | 体験談のどこかで立ち止まれるラインナップ |
| 共感 | 「自分もそうだ」「自分もそう感じた」と共感を
得られる力 |
| 希望 | AAプログラムで「自分も回復できるはず、や
ってみよう」と感じさせる力 |

BB「個人の物語」改訂と訳語の見直し
2016年と2018年の評議会に報告

2018年~2020年7月末
「個人の物語」原稿募集

応募総数: 35編
現BB12編 + 35編 = 計47編

2020年 1次選考を実施
26編へ

2021年 最終選考を実施
掲載決定: 20編

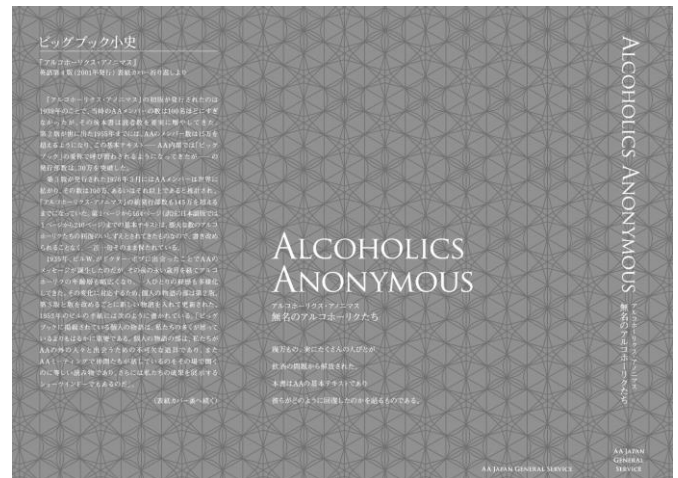
※改訂版発行は2024年頃予定

↑原稿募集時のフライヤー

改訂版ビックブックは現行版の在庫が切れるタイミングで順次、発行してまいります。よろしくお願ひ致します。また、ミーティングハンドブックについても、ビックブックの抜粋が多く用いられていますので、2025年早々に改訂版ビックブックに合わせたものに変更する予定です。

『12のステップと12の伝統』につきましても、第26回評議会報告(議題3-2)に基づき、一部訳語改訂を進めてまいります。

最後に、改訂版ビックブックハードカバー版のカバーデザインをご紹介します。色調は濃いグリーンベースです。シックで落ち着いた中にも新しさを感じさせるデザインとなっております。来年3月の50周年会場でも山積み頒布する予定です。一人でも多くの、今苦しんでいるアルコールクにメッセージが届けばと思っております。何卒宜しくお願ひ致します。



■AA公式ポスターが新しくなりました。どうぞ活用ください。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

B類常任理事 広報病設担当 石川

第29回評議会分科会で、12点の応募作品を、第3レガシー方式で3作品に絞りました。全体会議では、12作品見てみたいとの意見がありましたが、3作品の中より今回のポスターが選ばれました。応募くださったメンバーのみなさんありがとうございます。

そこで今回選ばれたポスターについて作成者にインタビューしてみました。

Q：応募しようとした動機は

A：AAにつながった自分がサービスとして、ポスターを作る機会があったデザインの勉強を始めるきっかけにもなった。今回の募集は自分のできることだと思った。夏休みごろだったので、こどもも宿題があるから、私もやってみようという気軽な気持ちで応募した。

Q：どんなところをポイントに置きましたか

A：ミーティングなどで聞いた仲間の話はいろんなシーンで酒が問題につながることを実感した。そしてそれは一杯の酒から始まっていた。その一つひとつを表現してみたかった。

Q：協力してくれた仲間はいますか

A：仲間の話しを思い出しながらデザインを考えていたが、何人かの仲間と直接会って聞くこともあった。広報の詳しい

メンバーにもポスターとしてどうだろうかと思いを求めた。

Q：選ばれた連絡が来たときはどんな気持ちでしたか

A：自分からサービス（ポスター作り）を始め、みんなと一緒にできた喜びは大きく、達成感もあった。応募してから少し時間がたった結果の連絡でしたので、うれしかったですが、やっぱり、みんなと一緒にやれた喜びは大きかった。仲間に感謝です。

Q：最後に一言あれば

A：いま、コロナ禍でAAの中が変わっているように思う。サービスは成長の機会であり、今回、仲間とひとつのことやりとげたので、多くの方にもサービスをしてほしい。また今回の作品はアルコールに問題を感じている方だけでなく、お酒によりいろいろな問題が起きる可能性があることを、そして回復の扉は開いていくことを伝えていきたい。



■ 30 回までの評議会テーマを振り返ってみました

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + -

B 類常任理事 評議会担当 笹井

2025 年 2 月に第 30 回 AA 日本評議会を開催します。評議会では 1996 年の第 1 回から毎回テーマを決めて活動してきました。

そこで、第 30 回の節目を迎えた評議会のテーマを第 1 回から集めてみました。その年、その年で AA 日本評議会では何が求められていたか想像しながらご覧ください。日本の AA の成長がうかがえると思います。

| 回 | テーマ | 日時 |
|----|--|-----------|
| 1 | 「基本を作ろう」……評議会とは？ | 1996/3/29 |
| 2 | 原点を見つめて | 1997/2/9 |
| 3 | 原点を見つめて「パートⅡ」 | 1998/2/6 |
| 4 | グループの良心を評議会へ | 1999/2/12 |
| 5 | AA を前進させるために | 2000/2/11 |
| 6 | サービスと献金 | 2001/2/10 |
| 7 | 全体サービスと一体性 | 2002/2/9 |
| 8 | 『グループと評議会』
～全体サービスの棚卸し～ | 2003/2/9 |
| 9 | 『グループと評議会』
～全体サービスの棚卸し part2～ | 2004/2/6 |
| 10 | 30 周年を迎えて愛とサービスの輪 | 2005/2/11 |
| 11 | 一体性 | 2006/2/10 |
| 12 | 私たちの本来の目的～手にした一冊の本 | 2007/2/10 |
| 13 | 私の責任（出会い～手渡すもの） | 2008/2/9 |
| 14 | 私たちは今、苦しんでいる仲間に
メッセージを届けているだろうか？ | 2009/2/6 |
| 15 | もっとシンプルにやろうよ | 2010/2/12 |
| 16 | グループの良心 | 2011/2/11 |
| 17 | 私の責任 | 2012/2/10 |
| 18 | 新しい仲間のために | 2013/2/9 |
| 19 | 受け渡してゆくもの | 2014/2/8 |
| 20 | 広めよう、報せよう、あなたの街に
AA があることを | 2015/2/7 |
| 21 | 広げよう、サービスの輪 | 2016/2/6 |
| 22 | 「信頼という名の絆」
—フェロウシップ(仲間意識)— | 2017/2/4 |
| 23 | 「3つのレガシー（遺産）」
—ステップ・伝統・サービス— | 2018/2/3 |
| 24 | 「あなたは AA をご存知ですか？」
—地域を越えて助け合おう、広報— | 2019/2/9 |
| 25 | 「自立」 —金銭とスピリチュアル(霊
的)なものが交わるころ— | 2020/2/8 |
| 26 | グループサービスからゼネラルサービスへ | 2021/2/6 |
| 27 | 優先されなければならないのは全体の福利
—未来に繋げよう不変の原理— | 2022/2/5 |
| 28 | デジタル時代に AA のメッセージを運ぶ | 2023/2/5 |
| 29 | 私は新しい仲間に AA の魅力を
きちんと伝えているか？ | 2024/2/4 |
| 30 | どうやればうまくいくのか“HOW IT
WORKS”～「回復・一体性・サービス」～ | 2025/2/9 |

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)9:00～17:00 (土・日・祝) 休